

## Ⅱ 調査結果の概要

総じて悪化傾向となり、先行き不安が一層高まる

### 1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、28年7-9月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲14.3となり、前回調査(29年4-6月期)の▲4.1から10.2ポイント下降している。来期見通しにおいては、2.2ポイント上昇して▲12.1となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲14.1となり、前回調査から14.1ポイント下降している。来期見通しにおいては1.1ポイント上昇して▲13.0となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲14.5となり、前回調査から6.4ポイント下降している。来期見通しにおいては3.4ポイント上昇して▲11.1となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲12.5となり、前回調査から8.4ポイント下降している。来期見通しにおいては4.1ポイント上昇して▲8.4となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については25.7となり、前回調査から2.3ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については▲3.6となり、前回調査から0.9ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲12.6となり、前回調査から6.5ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度D I（前期比）については▲0.8となり、前回調査から0.8ポイント下降し、硬化している。

設備投資実施率については26.9%となり、前回調査から0.7ポイント上昇している。業種別で最も高い実施率となったのは「食料品」の47.2%、目的別では「品質向上」が45.6%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については32.8%となり、前回調査から1.6ポイント上昇している。

設備操業率D I（前期比）については▲7.7となり、前回調査から1.7ポイント上昇している。











雇用人員判断D I（前期比）については20.7となり、前回調査から2.7ポイント上昇し、不足感は依然として高い水準にある。

全体の景況天気図は、再び「小雨」に転じており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

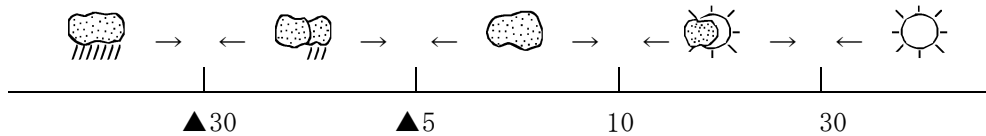
業種別に見ると「紙・加工品」は「薄日」から「曇」、「木材・木製品」・「プラスチック製品」は「曇」から「小雨」、「繊維・同製品」は「小雨」から「雨」へそれぞれ悪化している。また、「機械・機器」・「金属・同製品」は「曇」、「窯業・土石製品」・「食料品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「紙・加工品」は「曇」から「小雨」へ悪化する見通しとなっている。また、「金属・同製品」・「機械・機器」は「曇」、「プラスチック製品」・「窯業・土石製品」・「食料品」・「木材・木製品」は「小雨」、「繊維・同製品」は「雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	27		28				29			来 期 見 通
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	
全 体	 ▲21.9	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲12.1

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のDI平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

